

ももちゃん、作家になる



20260927



エリー



目次

A1E、プロット「ももちゃん、作家になる」.....	1
----------------------------	---

A1E、プロット「ももちゃん、作家になる」

●起

○事実

わたしの名前はももちゃん。ピンクのタオル地のうさぎのぬいぐるみなの。3歳のサリーちゃんに選ばれて、愛されてて、付喪神になったの。わたの体を抜け出して、透明になって飛べるんだよ。双子のももこ姉ちゃんとサリーちゃんのお世話をするの。

○反応

サリーちゃんはすっかり大人になって、沖縄にスキューバダイビングに行っちゃうの。寂しいけれど、お留守番して家を守るわ。

○認知

あれれ、大変。大事なお守りを忘れていっちゃった。わたしがお守りをつかんだら、なぜか透明になれない。

「わたしが運ぶわ！」

透明になったももこ姉ちゃんに運ばれて、空港に着いたよ。

でもサリーちゃんの飛行機が分からない。

○行動

遠くに、ビニールポーチに入った水色のぞうのぬいぐるみが見えたよ。助けを求めて近づいたの。

●承

○事実

ももこ姉ちゃんに運ばれて、水色のぞうのところにいくと、なんだかとっても寂しそう。

○反応

思いきって、「わたし、沖縄に行きたいの。あなたはどこにいくの？」と声をかけた。

するとぞうさんが答えた。

「僕はパオ。君たち透明になれるんだね。持ち主に愛されてていいなあ。僕は触ってももらえないよ」

そんな悲しいことがあるの！

「もし沖縄に行くなら、わたしが少しの間そばにいるよ！」

「ほんとお」

ニッコニコのパオにかくまわれて、わたしは飛行機の荷物置き場に乗り込んだ。

○認知

「僕は持ち主の彼女の手作りなんだ。彼女のことは好きなのに、どうして僕には触ろうとしないんだろう？」

わたしは探偵気分で考えた。

「彼女に触っているみたいで恥ずかしいから？」

「えー、僕は僕だよー」

それはそうだ。

謎は深まる。

○行動

「いつも一人だから、ももちゃんと一緒に嬉しいな。ずっといられたらいいのに」

「パオのことはすきだけど、わたしの一番はサリーちゃんなの。ごめんね」

「そっかぁ」

パオの背中が寂しそう。

●転

○事実

飛行機が沖縄について、パオの持ち主の荷物と一緒に、なにかの施設に運ばれた。

お守りを持って移動するなら、歩くしかない。

でもどこへ？

ぬいぐるみが歩いてたらホラーだし、なんだか疲れて部屋の中を歩くのが精一杯。

○反応

お守りは大事。置いていけない。

でも持っていたら、透明になれない。

どうしたらいいの？

サリーちゃん、ももこ姉ちゃん、会いたいよ。

「うわあああん」

大号泣するわたしに、パオが優しくささやいた。

「僕がいるよ。僕じゃダメなの？」

ひとりぼっちのパオもかわいそうだけど……。

○認知

その時、パオの持ち主が帰ってきた。

パオに近づき紙を広げて見せる。

「自衛隊の昇進試験に合格したよ。パオが見守ってくれたお陰だ。ありがとう！」

それだけ言うと部屋から出ていった。

「見て！」

振り向くとパオがわたの体から抜け出し、透明になっていた。

「付喪神になったのね！」

びっくりするわたしに、パオが窓を開けて声をかける。

「鼻につかまって！」

わたしはお守りを手に持ち、パオのくるんとまげた鼻につかまり、舞い上がった。

パオが耳をすませる。

「誰か読んで。行ってみよう！」

耳を羽ばたかせて、すごいスピードで、海の上を飛んだよ。

○行動

海の上で、ももこ姉ちゃんがあわあわしている。

水中をのぞくと、スキューバダイビングしているサリーちゃんの酸素マスクが外れて、苦しそうにもがいている。

わたしは、にぎりしめていたお守りを、勢いよく水中に投げ込んだ。

するとサリーちゃんが光に包まれて、マスクをつけることができた。

間一髪、水が戻り、サリーちゃんは助かった。

同時にわたしのわたの体は、海の中にドボンと落ちた。

流される～！

●結

○事実

海面に上がってきたサリーちゃんが、わたしのわたの体を抱き上げてくれたの。

助けに来たのに助けられちゃった！

透明になれたわたしは、パオと手を取り合って喜びを分かり合ったよ。

○反応

船に上がったサリーちゃんにパオを紹介したの。

「助けてくれてありがとう。いつでも透明になってうちに遊びに来てね！」

「ほんと？」

「ほんとだよ」

「わーい」

わたしとパオとももこ姉ちゃんは、嬉しくて海の上をとびまわったよ。

○認知

帰る前、なにも話してくれないパオの持ち主が、何をしているのか、わたしとパオで見に行ったよ。

走り込んだり、銃の手入れをしたり、とてもとても厳しい訓練をしていた。
パオはとても誇らしそう。

○行動

一度行った場所しか飛べないから、沖縄から帰る日、パオが透明になってついてきたよ。
家に着いたら、たれ親子が出迎えてくれたよ。他にもたくさんぬいぐるみがあって、に
ぎやかでパオはびっくり。
もう寂しくないね！

ももちゃん、作家になる 20260927

著 者 ELYE

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
